

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びを目指したICTの活用」

宮代町教育委員会

「個別最適な学び」を目指した取組事例

事例1

○教科名 国語（6年）

○单元名 「やまなし」

○身に付けたい力

- ・情報活用能力（整理・分析する力）
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力

○個別最適な学びへ向けた工夫

①デジタル教科書の活用

- ・まなビューア内の機能「マイ黒板」を活用し、本文の抜き出しを容易にした。何度もやり直しがきくうえに、ただ板書を写すのではなく自分の思考を反映したオリジナルの板書を作成可能である。
- ・「朗読機能」で、各自のペースで範読を聞くことができる。（速度・画面・挿絵）。
- ・様々な思考ツールを活用した。

②ICTとアナログの選択

- ・自分の考えをまとめる際には、ICTかアナログ（紙ベース）どちらも選択できるようにした。デジタル教科書のワークシートやマイ黒板だけでなく、紙ベースも用意することで、児童自身が自分に合った方法で学習できるようにした。



事例2

○教科名 国語（5年）

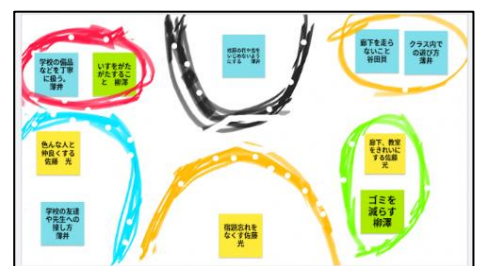
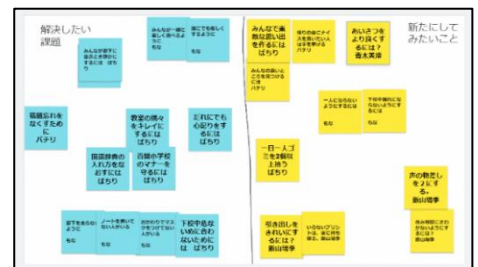
○单元名 よりよい学校生活のために

○身に付けたい力

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討することができる。（思Aア）

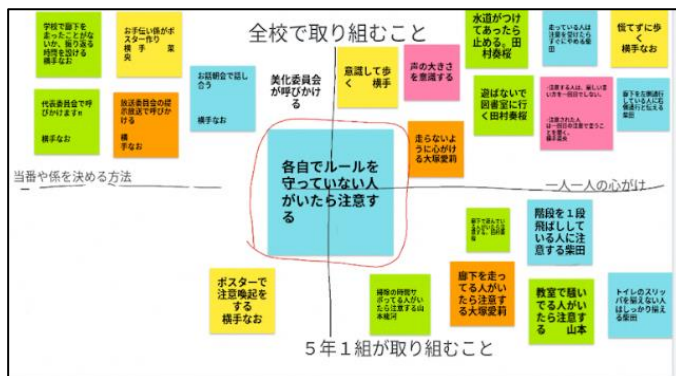
○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

- ・本单元では、「身の回りの問題を解決するために話し合う。」という言語活動が設定されている。そのために各自が身の回りにおける問題を把握し、自身の議題として決定することが必要不可欠となる。本授業の導入においては、Jamboardを利用し、議題の集約と共有を行った。
- ・児童の中には、「身の回りにおける問題から議題を決める」という課題に対して、困難さを感じる児童もいた。しかしJamboardにより、他の児童の考えが一覧で表示されるため、自身では思い浮かばなくても他の児童の考えを参考に



議題決定をスムーズに行えた児童が多くいた。また、本単元の目標として「集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討することができる。」ことが挙げられている。そのため、分類を行う際にも同様に Jamboard を利用した。教師が「全校で取り組むこと」「クラスで取り組むこと」「当番や係が行う事こと」「各自が行うこと」の4つの観点を示し、自身が考えた現状や解決方法がどの枠に当てはまるかを話し合わせた。

- 動かす際に根拠を言わせることで、分類の仕方を班で深く話し合うことができた。また、Jamboard を使用することで、気軽に付箋を動かせるため、児童らの意見の交流が活発になり、各自が持つ根拠に対して意見をもつ場面ができた。また、タイピングが苦手な児童は紙の付箋や口頭で伝えさせ、自身の意見が確実に反映されるようにした。



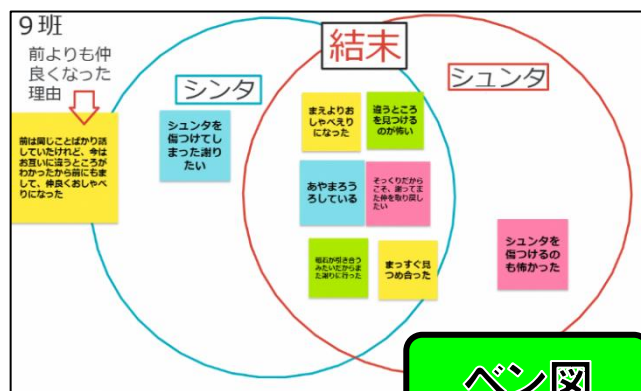
事例3

○教科名 国語（全学年）

○身に付けたい力 他者と協働しながら考えを深めていく。

文学的な文章の読解は、「正解がないから難しい」と言われることが多い。また、「登場人物の心情の変化を捉える」という課題について考えるとなったときにも、個人で考えることが難しく手がつかないという状況もありがちである。

そこで、思考の枠組みとして思考ツールを活用することとした。本時の学習課題を達成するための思考スキルを選んだ上で、それに適する思考ツールを使うようにする。例えば、右図のベン図は「比較する」という思考スキルを可視化したもので、下図のフィッシュ・ボーン図は



ベン図



個別最適な学び

協働的な学び



フィッシュ・ボーン図

「分析する・構造化する」という思考スキルを可視化したものである。

生徒は、個々に思考ツールを使って自分の考えを整理した後、それをもとに chromebook の Jamboard 上で他者と協働しながら考えを深めていく。思考の枠組みがあることで一人一人が何をどう学ぶかが明確となった。

ICTと思考ツールを組み合わせることによって、「個別最適な学び」の時間と「協働的な学び」の時間をより効果的に結びつけることができた。